慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	高井富子資料の整理、編成及び構造分析 : アート・ アーカイヴの整理事例として
Sub Title	Organization, arrangement and structual analysis of Tomiko Takai collection
Author	石本, 華江(Ishimoto, Kae)
Publisher	慶應義塾大学アート・ センター
Publication year	2022
Jtitle	慶應義塾大学アートセンター年報/研究紀要 (Annual report/Bulletin : Keio University Art Center). Vol.29 (2021/22), ,p.137- 154
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究紀要2021
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11236660-00000029-0137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高井富子資料の整理、編成及び構造分析
―アート・アーカイヴの整理事例として

石本　華江
所員、講師（非常勤）

1. はじめに

1993年、慶應義塾大学アート・センター（以下、アート・センター）は設立された[*1]。その5年後にアート・センターに開設された土方巽アーカイヴ（以下、土方アーカイヴ）は2022年で25年目を迎える。現代芸術に関する「研究アーカイヴ」の具体的な試みとして研究活動は開始された[*2]。現在土方アーカイヴに保存・管理している資料は、下記の通り大規模なものである。写真11,052、動画211、音声資料364、エフェメラ329、舞踏譜スクラップブック16、バインダーおよびスクリプト・シート255（1,300枚）、原稿15バインダー、書簡2,050、衣裳4、舞台美術20、書籍1,119、雑誌836、新聞（記事のみ登録）296、合計16,567件である（未整理資料含まず）。単位が系列ごとに異なるが全てを1件として数えた。また高井富子資料：63件（2019年3月段階）、池宮信夫資料：1,208件、石井満隆資料：1,470件、副島輝人資料：6,203件、辻村和子資料：232件を所管している[*3]。中核となる土方アーカイヴ資料に加えて、これら資料群の整理また今後の管理方針を決定することが必要に迫られていた。今回、中でも現在までほぼ未整理状態であった高井資料について整理を行なった。そしてアーカイブズ記述の国際標準であるISAD（G）第2版（以下、ISAD（G））を用いた編成及び構造分析を試みた。また整理、保存、公開利用の一助として、編成とその過程で考慮した諸点について示しておきたい。最後に編成、記述した高井資料について、現段階で可能なweb上での公開を行なった。その実践についても併せて報告する。

2. 高井資料について

2-1　高井富子資料の特徴

舞踏の創始者土方巽と大野一雄に師事した舞踏家、高井富子（1931-2011）が作成また収集した資料体である。舞踏創成期の重要な公演資料に加え舞踏譜研究において貴重な土方晩年の舞踏講座（1983-85年頃）参加時の記録、高井が収集した土方と大野に関する資料、自身の舞踏活動に関する印刷物、写真、衣裳、舞踏譜等の資料からなる。今回の整理にて、以下の資料群の概要が明らかになった。

書簡（A1-1封書221、A1-2葉書20）、A2-1-1メモ9、A2-1-2手帳3、A2-2土方・大野関連資料339、A2-3舞踏譜260、A3-1新聞雑誌記事93、A4写真300、A5-1音響893、A5-2映像247、A6-1衣裳213、A6-2立体36、A6-3ダンスに関係ない資料6、B1-1印刷物（高井の活動）351、B1-2印刷物（高井以外の活動）212、B2書籍84、合計3,287件である。単位が系列ごとに異なり、アイテムも袋や箱にまとまった資

料も全て1件として数えた。

2-2　高井富子の略歴と業績（参考資料1：高井富子年譜参照）

高井富子（1931-2011）は1953年江口隆哉・宮操子舞踊研究所に入門後、1958年大野一雄（1906-2010）に最初に師事した。その後60年には土方巽（1928-1986）に師事する。自身も新進気鋭の女流舞踊家であったが、1964年笠井叡と共演することにより以後「暗黒舞踏」のメンバーとして数多くの舞台に立った。土方巽、大野一雄、笠井叡とも親しく交わり、土方の演出作品にて舞踏創成期の舞踏家たちと共演している。60年代、大野一雄がアスベスト館に来て稽古をつけていた時期のことを知る重要な人物である。67年のガルメラ商会謹製《高井富子舞踏公演》〈形而情學〉（紀伊國屋ホール、演出：土方巽、共演：土方巽、大野一雄、石井満隆、笠井叡ほか、美術：中西夏之、清水晃、谷川晃一）、翌年の《高井富子舞踏公演》〈まんだら屋敷〉（第一生命ホール、構成、演出：土方巽、共演：土方巽、大野一雄、美術：清水晃）は大野一雄により「舞踏史上に残る作品」と言われる。長野千秋監督作品《O氏の死者の書》に出演、《大野一雄舞踏公演》〈ラ・アルヘンチーナ頌〉（第一生命ホール、演出：土方巽）に協力している。1985年《スタジオ200舞踏講座》〈東北歌舞伎計画一〉（スタジオ200、演出：土方巽）に出演し、活動を再開。1986年《高井富子舞踏公演》〈形而情學其ノ弐 蛇の目の蝶〉以来「形而情學」シリーズは14回を数える。1990年代以降海外での活動も多く、1991年フランクフルトでのジャパンフェスティバル、1993年ゲッティンゲンフェスティバルに出演。1998年オーストラリアのアデレードフェスティバルに〈マスターキー〉、2000年〈EXILE〉、またシドニーオペラハウスでも上演した。ソロ公演、ワークショップ他、国内はもとよりドイツ、フランス、オーストラリアほか海外でも精力的に活動を続けた。

3. 寄託の経緯及び整理の段階、資料の原秩序について

3-1　寄託の経緯及び搬入、整理の段階

資料の受入に関しては、2011年5月28日高井富子の逝去に際しご遺族からNPO法人舞踏創造資源（以下、舞踏創造資源）に寄贈があったことから始まる。同年、舞踏創造資源より土方アーカイヴに寄託が行われ、大部分は直ちに慶應義塾大学日吉キャンパス西別館地下収蔵庫（以下、日吉倉庫）[*4]へ搬入、一部は調査に合わせて2017年までに段階的に搬入された。

第一段階の調査は2011年から13年にかけて、舞踏創造資源とダンス・アーカイヴ構想[*5]によって大まかな整理が行われた。一部の成果は2011年「大野一雄フェスティバル2011」にてシンポジウム「高井富子 形而情學を巡る旅 大野一雄と土方巽を師として」内で発表されたが、この催事自体は故人を偲ぶ目的が大きいものであった[*6]。

その後2017年までに、重要資料のみに焦点を当てたリストを作成[*7]。一部三田に残してあった資料も2019年に全て移送を完了し、現在はアート・センターの日吉倉庫及び舞踏創造資源の管理する土方巽・中西夏之メモリアル猿橋倉庫〈アトリエ＋スタジオ〉（山梨県大月市）に分けて保管されている。なお今回の整理は日吉倉庫の資料のみを対象とした。また後述するように、映像資料の一部はデジタル化のために一時的に三田へ移送している。

3-2　原秩序について

原秩序を如何に考えるか、は今回の整理において判断が難しい事項の一つであった。まず、以下に経緯をまとめたい。

前述の通り、高井富子の自宅より遺族によって搬出された時点で高井本人による「原秩序」が崩れている。また日吉倉庫搬入時に限られたスペースに収める必要性の結果、また同時に行われた重要資料のピックアップの結果、更に秩序が失われた（2019年7月の写真参照、参考資料2）。更に埃やカビの問題があり、緊急性を持って2011年搬入時の段ボールから大型プラスチックケースへの入れ替えが行われた（2019年に5回に分けて作業。9月、12月、3月の写真を参照、参考資料3）。最後に今回の整理は2021年10月2日間、11月2日間、12月2日間にわたって実施されたが、後述する島根での研修後に行われた整理は最後2回のみであった。10月11月の整理においては、既に原秩序を留めていないプラケースにまとまった資料を、形態や特徴により更に解体することが行われた。

アーカイブズの原則は、(1) 出所原則 (2) 原秩序尊重の原則 (3) 原形保存の原則 (4) 記録の原則である[*8]。アーカイブス学の整理論は、体系的な秩序を持つという特徴がある文書群の本来持っていた関連性を見出し、秩序を再構成し、提示するために「出所原則」と「原秩序尊重の原則」という2つの原則を守らなければならない[*9]。

原秩序尊重の原則が既に崩れている資料群の「原秩序」を、どの時点でどう判断するか。原則の知識が共有されていない遺族や受託者の判断、一度に限られたスペースに搬入せねばならない状況、燻蒸や清掃というプロセスを経る時間がなく、埃だらけでカビが発生した段ボールを処分する緊急性、

それらに加え出張作業で行える作業量との兼ね合いもある。数年、数回にわたる作業にて担当者が変動、資料体のうち重要なものをピックアップする作業が優先され、一部だけのリスト化が行われてきた経緯など、理想と現実のギャップを痛切に感じる。こうした場合、原秩序尊重の重要性がどこまであるのか疑問を持った。

筑波大学の恩田怜が修士論文でコンパクトにまとめている[*10]。

> 「原秩序」の解釈は、現用段階（大藤修、1986）[*11]（安藤正人、1988）[*12]、現用終了時（高橋実、2003）[*13]、保存機関が受け入れた時の状態（現秩序）（岡部真二、1992）[*14]（本田雄二、1995）[*15]など様々な主張がある。鈴江によると、どの時点の「原秩序」を採用するかは、史料の状況と目録作成者の意思にゆだねられているという[*16]。（恩田　2016年、p.46　引用内の註は筆者が新規に追加）

アート・アーカイヴも、行政文書と同様に作成時、管理時の二重の原秩序を持つと考えられる[*17]。しかしながら行政文書のように管理が規則的になされていないため、体系的な秩序が見えにくく、また管理状態をそもそも原秩序とみなす必要性が低い。高井資料と類似の理由において、原秩序が崩壊している事例は多いと思われる。整理者の恣意性を排除するという観点[*18]で、原秩序または「現秩序」の原則を尊重し、今後最大限の配慮をしていきたいと考える。その一方で、原秩序が崩壊し現秩序さえも失われたような資料体において目録作成時にどこまでの配慮をするのか判断が難しいのも事実だ。

しかし、今回の整理において原秩序の有用性を感じた点は公演ごとのまとまりであった。これは高井本人が一つの袋やファイルなどに塊を作っており、雑多な集まりのように見えて恣意的な集まりであることを直接的に感じた資料であった。従って他の整理基準（編成の章に後述）に従って分解せずに秩序を残す必要性があると判断し、慎重に現秩序を保った。整理のスピード感をどのように保つかも含めて、いつの段階を原秩序または現秩序とするのか、加えて残された状況から過去へと辿り復元する必要性など、複合的な判断が必要であろう。

3-3　資料の保存について

日吉倉庫は註にあるように、温湿度管理がなされておらず、アート・センターの中でも使用頻度の低い資料が保管されている。また今回は資料保存に関して予算組をしておらず、作業時間の限界もあり、現状できる範囲での処置だけを行なった。以下、概要をまとめる。

シート状のものは、アート・センター内で使用しているポリエステル袋に封入した。劣化したセロハンテープは取り除いたが、クリップやホッチキスは錆びているものも含め、原形保存のために今回は残している。今後は除去し、塊が分かるように記録した上でポリエステルの袋にて保存することが望ましい。同様に封筒やビニール袋、ファイルやケース等にまとまっているものは現状のままとした。また中性紙の箱は予算上用意が難しいため、事務用デスクトレー（中芯：古紙パルプ、表装：ポリプロピレン）を再利用し、整理に用いた。さらにプラスチック製の大型保存容器、折り畳み式コンテナを使用し、プラスチックパレット上に保管。しかし状態が良ければ、搬入時そのままの衣裳ケースなどもある。ただし埃やカビの酷かった段ボール類は破棄した（布製バッグなどは一部保存）。ビネガーシンドロームの起こっているフィルム等はポリエステル袋を二重にしてまずは保管したが、次回調査時に竹炭を用意する必要がある。最後にデジタル化のために三田へ一時的に移送した一部のVHS資料は、アート・センターに入れる前に清掃を行なった（参考資料4）。カビを発見したものにはその旨記載し、個別にポリエステル袋に封入した。

4. 資料群の編成、分析と物理的整理

4-1　資料の編成と構造分析表

今回の整理はICA（国際公文書会議）のISAD（G）で提示されている階層構造[*19]とオーストラリアのシリーズ・システムによる構造把握[*20]を参考に、基本的にはISAD（G）の前提として示されている階層構造モデルを用いて編成を行った。編成項目は形態及び公演ごと（つまり年代別の編成）、及び土方・大野に関連する資料という主題別の編成と、複合的な編成を採用する形になった。先に整理が開始されているアート・センター内の土方アーカイヴ、瀧口修造コレクション等の事例を参照し、ダブリン・コアの項目をベースに、必要な情報をISAD（G）より補った形で構造分析表は作成してある。

4-2　判断なのか破壊なのか

前述のように、体系的な秩序を持つという特徴がある文書群の本来持っていた関連性を見出し、秩序を再構成し、提示することを目的としたアーカイブス学の整理論は（1）概要

調査、(2) 内容調査、(3) 構造分析、(4) 多角的検索という段階を経て整理されるべきであると主張されている*21。

しかしながら調査計画を立てる際に少なくとも概要を把握しておく必要性があるが、箱を開けてみないと何が入っているか分からない資料群をどのように事前に把握できるのか、そのジレンマにまず悩まされた。人員確保に伴う予算、スケジュールの制約を受けながらの整理においては、物理的整理をしながら写真撮影と目録データ作成と共に行う必要性があった。またスペースの都合上、全体に拡げての作業はできない。箱を開けながら、同時並行で有用無用の評価、内容調査・編成並びに構造分析を行うことになる。これが段階的整理論に沿えなかった最大の理由である。概要調査、内容調査、編成、構造分析の多角的検索という段階を経ることは、本来可能であれば行うべき、先人の経験や知恵に基づいたものであろう。しかし物理的な整理と編成を同時に行うことの利点(そして欠点)もある。アート・アーカイヴ資料の多様性・複雑性、後から後から混在する資料が出現するような状況において、ある特定の形式で作成された文書群や古文書調査とは違い、民間アーカイブズや個人文書に特徴的な状況を鑑みた「判断」をせねばならない。だがその「判断」が「破壊」に繋がらないようにするには、どういった「判断基準」を持てば良いのか。

4-3　有用と無用、評価選別について

竹林忠雄は整理者の恣意性が高まる危険性を排除するために、概要調査や仮目録を作成し現秩序を記録することを主張している。また秩序が不明瞭な場合は、目録上で編成し、保管の現状を崩さないという方法も考えられると述べている*22。

だが今回高井資料においては前述の通り、原秩序はおろか、現秩序も曖昧な状況であり、また最初に有用・無用を判断せねばならない。この場合、「有用」とは舞踏に関係する資料であり、「無用」とはそれ以外の資料である。整理はその評価判別から始まったが、今回「ダンスに関係ない資料」も廃棄せず雑資料のA6-3としてリストを作成した。しかし今後は別の場所へ移管、または廃棄といったことが検討される資料となる。本来、特に芸術系のアーカイヴにおいて評価選別は行わない方が良いであろう。しかしながら、スペースと予算がそれに限界を設けるのは言わずもがなであろう。「文化創造の拠点としてのアーカイヴ」として、よりアーカイヴの重要性を高めるために、そして舞踏という芸術を対象にした研究者、実演家、愛好家、観客などをゆるく含んだコミュニティを維持し、基盤となるためのアーカイヴとなるために、無尽蔵に資料を貯め込むことができれば良いが現実には難しい。既に舞踏関係者にとって「聖地巡礼」のような場として機能している土方アーカイヴが更に強固な磁場を持つには、より重要な情報資源を収集し続けることがアーカイヴの存続理由になり、そのために「価値」のポリシーが必要だ。逆に言えば、評価選別が必要となってくるのだ。

4-4　今回の整理における「欠点」、今後の検討事項

以上最終的にどう保存・公開するかを念頭に置き、今回は編成を行いながら同時に物理的整理も行なった。利活用時の閲覧者に対する利便性を考慮した結果ではあるものの、破壊行為につながる資料整理の危険性を感じると共にどのような解決策があるのか、理想と現実の差を痛感する。また今後の自分自身に対する戒めのため、加えてアート・アーカイヴを一から整理される方のために検討事項をまとめておく。

今回「バチカン方式」*23を参照し、整理の際に写真撮影を行なった(参考資料6)。カラーチャートは土方アーカイヴに用意がなかったため、スケールだけ用意し、2人セットで作業、判断を行なった。しかし撮影の際に、アート・センターに所管された他の資料体を参考に系列表を想定した整理番号を付与することで時間短縮を図ったが失敗であった。段階的に資料群を切り崩しながら全体の編成を考えるため、系列表は幾度も変更することを想定して作業を行うべきであった。整理番号に階層構造を反映した番号を振ろうとしたのは無謀であったと言わざるを得ない。

何が出てくるか開けてみないと分からない状況により、結果的に1点ごとの調査になってしまった。しかし前述のように高井自身が塊を作ったと思われる袋、箱などは「原秩序尊重」のため、部分的にはまとまりで記録を行なった。加えて前述の通り基本的にはISAD(G)を前提として編成を行い、形態及び公演(年代)、及び土方・大野に関連する資料という主題別の編成と、複合的な編成を採用する形にした。こうした複合的な判断が、分類を行う上でどの基準を適用させるのか優劣において混乱を生じる結果となった。

また、文書管理規則・細則などが無いからこその問題もあった。レコード・マネジメントの観点で、記述法則を最初に制定する必要性を痛切に感じた。どれ位の精度で、どうデータを記述していくのか、詳細に方向性を示すべきであった。1998年開設以来、ID付与の法則が変更し続け、その度に混乱を生じた土方アーカイヴの問題点を熟知していた筆者であるが、それでも今回の混乱は起こった。作業にかかる前

に、記述の方針・法則を作業人員全員に共有する必要性を強く感じた。

5. 公開について

5-1　整理段階での公開

膨大な資料をアイテムレベルでの整理に帰結させるのではなく、途中段階で公開を行うことには勇気が必要だ。今まで土方アーカイヴはある程度の整理を終了した段階で公開を行なっていたが、研究者、閲覧者への利便性を重視し公開を優先させることとした[*24]。その際にバイネキー図書館（コレクション専門）の事例[*25]が参考になった。「使ってもらうための目録」として、途中段階でも公開してアクセスを保証し、研究価値・利用数見込みなどを重視、登録記録を作成し直ちにwebでの公開を実施する。最低限の編成・記述（シリーズレベル）は300箱2ヶ月というスピード、資料を物理的に編成し、利用の観点からテーマ別、種類別など合理的な編成を行うというスキームである。

これらを踏まえて、現段階で可能なweb上での公開を実施した。以下に概要をまとめる。

(1)　慶應義塾大学アート・センターHP[*26]に概要目録から、3列（URI、タイトル、日付）の簡易リストをPDFに整形し公開（参考資料7、8）
(2)　ジャパンサーチ[*27]と連携したKeio Object Hub[*28]にハイライトコンテンツを掲載

高井資料の特徴に前述した通り、舞踏創成期の重要な公演資料、高井が収集した土方と大野に関する資料が資料体のハイライトとなる。従って、以下の2件に焦点を当てた。

タイトル：高井富子の《砂利の衣裳》
タイトル：大野一雄自筆サイン入りポスター2点　大野一雄・慶人USツアー/南米ツアー　大野一雄の自署と「楽しかった」のサイン入り

5-2　今後について

今後、研究者のリクエストに応じて順次整理を行い、調査内容を反映させてゆく。また特に重要と思われる資料（土方・大野関係資料）のより詳細な調査及びスキャンを検討している。また前述の通り映像資料の一部は三田へ移送したが、音響資料のデジタル化も順次行う予定だ。また適宜日吉倉庫内の清掃と衣裳のメンテナンスが必要だ。季節ごとに陰干しを行えればベストだが、せめて樟脳などを入れるべきか、この点については人員手配と予算を鑑みて現実的な方法を取りたい。

6. おわりに

まさに遺品整理のアーカイヴ整理であった高井資料は、民間アーカイヴ、特にアート・アーカイヴの整理について考える際に良い事例となると思われる。資料の素材も雑多な資料体であり、コンテクストを読み取り、価値を創り、記録を作っていくアーカイヴの真価を問われている。しかし価値の創造を担う役割にどう責任持って対応できるのか、整理という破壊を行わないために具体的にどう注意すべきなのか、未だ結論は出ない。また今回の調査においても、アート・アーカイヴの具体的な整理事例報告はまだ数少ないように思われる。アーカイヴ担当者の経験や知識量などにも大きく左右されるであろう「判断」は、筆者の知識量や経験値の乏しさにより必要以上に混乱したことは間違いない。この整理報告が一事例として、これから整理を行うアーカイヴ担当者の一助となることを願うばかりである。

最後に慶應義塾大学アート・センターが土方アーカイヴをパイロットモデルとして取り上げスタートさせた研究活動[*29]について述べ、土方アーカイヴの拠るべき指針を確認しておく。「アーカイヴとは特定の主題に関してドキュメント（一次資料）を収集・整理・保存・管理する機関を意味するが、本プロジェクトにおけるアーカイヴは、特に研究上の関心を活動の中核におく『研究アーカイヴ』に該当する。研究アーカイヴとは、上記の活動に加えて、さらに、特定主題に関する研究文献（二次資料）の収集や研究情報探索の具体化を図る活動である」と鷲見洋一が述べるように[*30]、「ジェネティック」をキーワードとしてきた。また同じく鷲見洋一による重要な指摘を引用して、これからの土方アーカイヴを考えてゆく一つの方針としたい。「アーカイヴにおける資料の閲覧や公開は、閲覧サービスを目的とする図書館などのそれとは異なり、あくまで本来の研究業務を遂行しつつ、外部の専門的な研究者にオープンな形式で知識を共有していただき、あわせて積極的な批判を要請しながら、研究基盤や方法論的水準で改善を試みるものである」[*31]。

註

＊1　アート・センターの設立趣意『慶應義塾アート・センター年報1（1993/1994）』、1994年、3-7頁。
＊2　土方巽アーカイヴ開設については、前田富士男「土方巽

アーカイヴの開設」『ARTLET 10』、1998 年、5 頁。

＊3　森下隆「土方巽アーカイヴ［寄贈・寄託および預託］」『ARTLET 51』、2019 年、3 頁。

＊4　慶應義塾大学三田キャンパス南別館収蔵庫（温湿度管理）とは別に、使用頻度や貴重度、資料のサイズなどを鑑みて、日吉キャンパス西別館地下にある収蔵庫にも資料を保管している。日吉の収蔵庫は温湿度の管理はされていないが、地下にあり一年を通して温度の変化が少ない。

＊5　ダンスアーカイヴ構想
https://dance-archive.net/（Accessed 2022-01-02）.
以下トップページより
「NPO 法人ダンスアーカイヴ構想（DAN）は、大野一雄舞踏研究所のアーカイヴ活動を引き継ぐ法人として 2016 年に設立されました。舞踏家大野一雄と大野慶人の芸術資産を核に、国内外のダンスに関する資料を幅広く収集し、その積極的な公開と活用を通じてダンスリテラシーの向上に努めるとともに、国際的なネットワークの構築に取り組んでいます。」

＊6「大野一雄フェスティバル 2011」シンポジウム「高井富子 形而情學を巡る旅 大野一雄と土方巽を師として」（2011 年 10 月 9 日、新・港村ホール）基調報告：森下隆（慶應義塾大学アート・センター）コメンテーター：合田成男（舞踊評論家）、中嶋夏（舞踏家）http://www.kazuoohnodancestudio.com/japanese/perform/kof2011.html#Symposium（Accessed 2022-01-02）.

＊7　森下隆「土方巽アーカイヴ」『慶應義塾大学アート・センター年報 21（2013/2014）』、2014 年、20 頁。

＊8　国文学研究資料館主催「2021 年度アーカイブス・カレッジ史料管理学研修会」（以下、アーカイブス・カレッジ）の初回授業において、国文学研究資料館研究部渡辺浩一教授が説明された。また、小川千代子『アーカイブを学ぶ 東京大学大学院講義録「アーカイブの世界」』岩田書院、2007 年、43-44 頁にも同様の記述がある。

＊9　安藤正人「第三章 史料の整理と検索手段の作成」国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』岩波書店、1988 年、51-98 頁。

＊10　恩田怜「個人文書群の目録編成に関する研究 ―小野、長岡、馬場文書群の目録編成事例を通して―」、筑波大学図書館情報メディア研究科修士論文、2016 年 3 月、46 頁。

＊11　大藤修「第六章 近世文書の整理と目録編成の理論と技法」大藤修・安藤正人共著『史料保存と文書館学』吉川弘文館、1986 年、202-285 頁。

＊12　安藤正人「第三章 資料の整理と検索手段の作成」国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』岩波書店、1988 年。

＊13　高橋実「5 章 地域史料調査論」国文学資料館編『アーカイブズの科学下』柏書房、163-180 頁。

＊14　岡部真二「現地調査における史料整理の方法について―原秩序尊重・段階的整理の実践報告―」『記録と史料』3 号、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、1992 年、49-65 頁。

＊15　本田雄二「史料整理と目録編成について―原秩序尊重の目録編成と分類項目付与の有機的連関―」『新潟県立文書館研究紀要』2 号、新潟県立文書館、1995 年、54-77 頁。

＊16　鈴江英一『近現代史料の管理と史料認識』、北海道大学図書刊行会、2002 年、314-317 頁。

＊17　竹林忠男「行政文書の整理と編成―史料整理基本原則の適用とその問題点―」『日本のアーカイブズ論』全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、2003 年、424-441 頁（初出は『記録と史料』5 号、1994 年）。

＊18　呉屋美奈子・富永一也「公文書館における私文書の収集と整理：実践と課題」『沖縄県公文書館研究紀要』第 9 号、沖縄県公文書館、2007 年、85-103 頁。

＊19　アーカイブズ・インフォメーション研究会編『記録史料記述の国際標準』北海道大学図書刊行会、2001 年。

＊20　森本祥子「オーストラリアのアーカイブズ・システムについて―概観―」高埜利彦研究代表『歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究』（科学研究費補助金（基盤研究 A）研究成果報告書、平成 15 年度～平成 18 年度）、学習院大学、2007 年、222-236 頁。

＊21　安藤正人「第三章 _ 史料の整理と検索手段の作成」国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』岩波書店、1988 年、51-98 頁。

＊22　竹林忠男「行政文書の整理と編成―史料整理基本原則の適用とその問題点―」『日本のアーカイブズ論』全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、2003 年、424-441 頁（初出は『記録と史料』5 号、1994 年）。

＊23　アーカイブ・カレッジ内で国文学研究資料館研究部の太田尚宏准教授がご説明された。

＊24　これはアーカイブ・カレッジ内で国文学研究資料館研究部の西村慎太郎准教授が、アイテムレベルの記述を重視せず、早めに閲覧に供することを仰っており、その言葉に背中を押されたからである。

＊25　国文学研究資料館研究部の加藤聖文准教授がご紹介され

た。
Yale University Library Beinecke Rare Book & Manuscript Library　特に以下のページを参考にした。
Recent Acquisitions
https://beinecke.library.yale.edu/collections/recent-acquisitions（Accessed 2021-01-01）.
Newly Digitized Highlights
https://beinecke.library.yale.edu/newlydigitized（Accessed 2021-01-01）.

＊26　慶應義塾大学アート・センターウェブサイト
「アーカイヴの資料体」のうち「土方巽アーカイヴ」の下位コレクションとして公開
http://www.art-c.keio.ac.jp/archives/list-of-archives/hijikata-tatsumi/（Accessed 2021-01-01）.

＊27　ジャパンサーチ
https://jpsearch.go.jp/　（Accessed 2021-01-01）.
以下トップページより概要
「ジャパンサーチは我が国の幅広い分野のデジタルアーカイブと連携し、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォームです。」

＊28　Keio Object Hub
https://objecthub.keio.ac.jp/ja（Accessed 2021-01-01）.

＊29　文部省科学研究費補助金（COE 形成基礎研究費）による企画『創造的ディジタルメディアの基礎と応用に関する研究』の 3 年目にあたる 1999 年に「ジェネティック・アーカイヴ・エンジン」研究プロジェクトとして開始。

＊30　鷲見洋一『慶應義塾大学アート・センター年報』vol. 6, 1999 年、60 頁。

＊31　鷲見洋一、『オープン・リサーチ・センター整備事業（ORC）進化するアーカイヴ慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター報告書（2001-2006）』、慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター、2006 年、29 頁。

［参考文献］

小川 千代子「ISAD（G）の実装：アジア歴史資料センターの階層検索システム（イノベーションとしての記録管理）」、『レコード・マネジメント』45 巻、2002 年、10-25 頁。

坂口貴弘「アーカイブズ情報の共有化はどうすれば進展するのか：国際調査の結果から」、『国文学研究資料館紀要』4 号、2008 年、21-38 頁。

垣田みずき「舞台芸術アーカイブズの編成記述に関する考察―慶応義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴを事例に―」、『国文学研究資料館紀要　アーカイブズ研究篇』49 巻 14 号、2018 年、44-60 頁。

下久保恵子「ISAD（G）及び AtoM を用いた個人文書の編成・記述・公開―エル・ライブラリー所蔵「辻保治資料（近江絹糸紡績労働組合関係資料）」を例として―」、『国文学研究資料館紀要　アーカイブズ研究篇』51 巻 16 号、2020 年、147-160 頁。

Andrew Flinn, M. Stevens, & E. Shepherd（2009）Whose memories, whose archives? Independent community archives, autonomy and the mainstream. *Archival Science*：9（1-2）, pp.71-86.

Andrew Flinn（2015）Community Archives, in Duranti and Franks（eds.）*Encyclopedia of Archival Science*. Rowman & Littlefield, pp. 145-150.

石本華江「土方巽アーカイヴ―― 22 年の歩み及び今後の展開」、『慶應義塾大学アート・センター年報／研究紀要 27（2019/2020）』、2020 年、172-182 頁。

石本華江「土方巽アーカイヴ　過去展覧会における視座」、『慶應義塾大学アート・センター年報／研究紀要 28（2020/2021）』、2021 年、128-142 頁。

国文学研究資料館史料館編『アーカイヴスの科学（上）』柏書房、2003 年。

マリア・バルバラ・ベルティーニ、湯上良訳『アーカイブとは何か　石板からデジタル文書まで、イタリアの文書管理』法政大学出版局、2012 年。

佐藤知久、甲斐賢治、北野央『コミュニティ・アーカイブをつくろう！―せんだいメディアテーク「3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター」奮闘記』晶文社、2018 年。

参考資料 1

高井富子年譜	
1931 年 3 月 31 日	群馬県勢多郡大胡町に、父喜久雄、母きわの二女として生まれる
1948 年 4 月	大胡小学校、大胡中学校を経て、群馬県立前橋女子高校に進学
1950 年	ダンス部員として国民体育大会に出場（大胡町出身の女性として初の国体出場）
1951 年 4 月	大胡町立大胡中学校に教員として勤務
1953 年	この頃、上京、江口・宮舞踊研究所に入所。大和学園に勤務
1954 年 6 月	江口隆哉・宮操子舞踊団大阪公演「プロメテの火」（大阪産経会館）に出演
1955 年 3 月	江口隆哉・宮操子舞踊団公演「プロメテの火」（東横ホール）に出演。伏屋順二ダンスリサイタル（東横ホール）に出演
1956 年 1 月	伏屋順二ダンスリサイタル（第一生命ホール）に出演
11 月	江口隆哉・宮操子舞踊公演「プロメテの火」（東京産経ホール）に出演
1957 年 1 月	月曜会舞踊公演（第一生命ホール）に出演。花柳寿々摂、寿々摂リサイタル（東横ホール）に出演
1957 年 6 月	江口隆哉・宮操子舞踊団公演「インディアン・ラプソディ」（大阪産経ホール）ほかに出演
10 月	志賀美也子・伏屋順二ソロリサイタル（読売ホール）JF グループ作品に出演
1958 年 1 月	江口隆哉・宮操子舞踊公演九州巡演「プロメテの火」ほかに出演
2 月	JF モダンダンス・グループ公演（第一生命ホール）に出演
7 月	東京モダンダンス公演（第一生命ホール）「さぼてん」ほかに出演、「黒人霊歌」振付
1960 年 10 月	江口隆哉・宮操子舞踊団公演（産経ホール）「作品七番」ほか出演
1964 年 7 月	第 3 回新鋭中堅舞踊家による創作舞踊公演（文京公会堂）に「かなしむ」出品。笠井叡共演
1965 年 7 月	第 4 回新鋭中堅舞踊家による創作舞踊公演（虎ノ門ホール）に「乳母車」出品。笠井叡共演
1966 年 8 月	笠井叡処女璃祭他瑠（銀座ガスホール）に出演
1967 年 7 月	高井富子舞踏公演「形而情學」（紀伊國屋ホール）。土方巽演出・振付・出演。大野一雄、笠井叡、石井満隆出演
1968 年 9 月	高井富子舞踏公演「まんだら屋敷」（第一生命ホール）。土方巽演出・振付・出演。大野一雄出演
1972 年	長野千秋監督作品「O 氏の死者の書」に出演
1977 年 11 月	大野一雄舞踏公演「ラ・アルヘンチーナ頌」公演（第一生命ホール）に協力
1985 年 3 月	土方巽作・演出・振付「東北舞伎計画一」（スタジオ 200）に出演
5 月	< 暗黒舞踏前橋初公演 > 土方巽演出・振付「ひとがた」（煥乎堂音楽センター）に出演
1986 年 2 月	高井富子舞踏公演「形而情學其ノニ 蛇の目の蝶」（草月ホール）
1986 年	高井富子舞踏公演「形而情學其ノ三 火柱子」（転形劇場 T2 スタジオ）
1987 年 8 月	土方巽追悼公演「病める舞姫」（銀座セゾン劇場）に出演
1989 年 8 月	白州フェスティバルに出演、高井富子舞踏公演「形両情學其ノ四冬の大雨」（草月ホール）
1990 年 1 月	川仁宏ライブ・パフォーマンス「シーソー」（テルプシコール）に出演。小杉武久共演
1990 年 2 月	高井富子舞踏公演「形而情學其ノ五 野花の露」（スタジオ 200）。石丸徳秀、大森政秀、玉井康成出演
1991 年	ジャン・ヴィアラ監督ビデオ作品「羽衣」に主演
1998 年 3-4 月	アデレードフェスティバル参加作品「Masterkey」（The SpaceTheate）出演。Mary Moore 演出、戸川昌子脚本
1998 年	高井富子舞踏公演「形而情學其ノ五 野花の露」（パリ、時の劇場）
1999 年	高井富子舞踏公演（パリ、エスパス・バトー・ラヴォワール）
2000 年 8 月	高井富子ソロ "Exile"（シドニー、オペラハウス・スタジオ）。Mary Moore 演出
2000 年 11 月	高井富子ソロ "Exile"（上海、上海 Lyceum 劇場）。Mary Moore 演出
2004 年 12 月	高井富子ソロ "Exile"（アデレード、The Space Theatre）。Mary Moore 演出
2007 年 1 月	「大野一雄百歳の年 ガラ公演 百花繚乱」（神奈川県立青少年センター）に出演
2008 年 12 月	ASIA TRI JOGJA 2008 "The Life of Butoh"（ジョグジャカルタ）に出演
2009 年 10 月	大野一雄フェスティバル 2009「禁色 work in progess1960」（BankART StudioNYK）に出演
12 月	Butoh Festival "The Intensity of Age：Tradition and Modernity in Butoh"（ブダペスト、国立ダンスシアター）に出演
2010 年 11 月	大野一雄フェスティバル「Hallelujah 終わりのない舞踏会」（BankART StudioNYK）に出演
2011 年 5 月 28 日	自宅にて冠状動脈硬化症で急逝。享年 80 歳

『高井富子さんを送る会』リーフレット / 制作：国際舞踏連絡協議会（森下隆、溝端俊夫）構成：森下隆（土方巽アーカイヴ）版下デザイン：本間友
2011 年 7 月 23 日発行、筆者により若干の修正を行なった。

参考資料２

日吉倉庫内写真

2019 年 7 月 2 日

2019 年 7 月 2 日

参考資料３

日吉倉庫内写真

2019 年 9 月 26 日

2019 年 12 月 11 日

2020 年 3 月 11 日

2020 年 3 月 11 日

参考資料 4

VHS の清掃

4-1

4-2

4-3

参考資料５

高井富子系列

2021.12.02.

A 単独的なもの	A1 書簡	A1_1（封書）		封書（封筒に入っていたと思われる日付や宛先の記載されている便箋等を含む）封筒のみ、便箋のみ、手紙の下書きも含む
		A1_2（葉書）		葉書（消印がないもの、宛先がないものも含む）
	A2 各種文書	A2_1（書類）	A2_1_1（草稿・メモ）	自筆草稿やその他草稿類、メモ含む
			A2_1_2（手帳）	手帳または日記帳
			A2_1_3（名刺・色紙）	名刺、色紙
		A2_2（土方・大野関連資料）	A2_2_1（土方関連資料）	土方の公演に関わる印刷物、コピー
			A2_2_2（大野関連資料）	大野の公演に関わる印刷物、コピー
		A2_3（舞踏譜）		舞踏譜
	A3 クリッピング	A3_1（新聞／雑誌からの切り抜き）		切り抜かれているもの・新聞記事、雑誌記事、書籍記事のコピー及びオリジナル
	A4 写真	A4_1（プリント）		写真プリント
		A4_2（フィルム）		フィルム
		A4_3（スクラップブック）		コンタクトプリント・写真などが貼られた写真アルバムなど
	A5 視聴覚資料	A5_1（音響）	A5_1_1	レコード（LP, SP, EP）
			A5_1_2	オープンリール
			A5_1_3	カセット
			A5_1_4	CD
			A5_1_5	MD
		A5_2（映像）		映像資料
	A6 雑資料	A6_1（衣裳・小物）		舞踏の公演、舞踏以外の公演（日本舞踊）の衣裳、小物を含む
		A6_2（立体）		日用品や遊具などの雑多な立体物
		A6_3（ダンス以外の雑資料）		ダンスに関係のない資料群
	A7 その他	A7_1（未整理／未分類）		分類が保留されている資料群
B 複数あるもの	B1 印刷物	B1_1（催事関連印刷物）高井	B1_1_1（リーフレット）	種別：sheet、チラシ
			B1_1_2（ブローシュア）	種別：brochure、プログラム・パンフレット
			B1_1_3（ポスター）	種別：poster
			B1_1_4（チケット）	種別：ticket、card
			B1_1_5（招待状）	種別：招待状・案内状
		B1_2（催事関連印刷物）非高井	B1_2_1（リーフレット）	種別：sheet、チラシ
			B1_2_2（ブローシュア）	種別：brochure、プログラム・パンフレット
			B1_2_3（ポスター）	種別：poster
			B1_2_4（チケット）	種別：ticket、card
			B1_2_5（招待状）	種別：招待状・案内状
	B2 書籍・出版物一般	B2_1（単行書）		書籍
		B2_3（雑誌）		雑誌
		B2_3（新聞）		新聞
	B3 その他			枠組みが設定されていない印刷物など
C 参考資料	C1 書誌目録	B2_1（単行書）		書籍
		C2_2（単行書　記事）		書籍記事
		C2_3（雑誌）		雑誌
		C2_4（雑誌記事）		雑誌記事
		C2_5（新聞記事）		新聞記事
	C2 KUAC 作成資料			KUAC によって新たに作成された研究資料（展示関連印刷物、年譜等）
	C3 KUAC 外作成資料			参考資料（書籍・雑誌・展示カタログ等の二次資料）

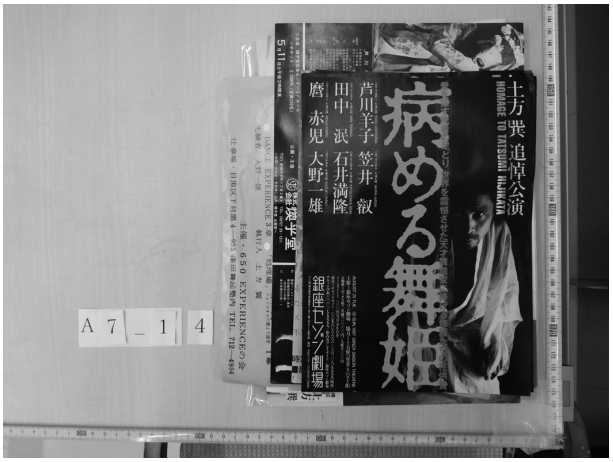
参考資料６

整理時の撮影写真

6-1

6-2

6-3



6-4

6-5

6-6

6-7

6-8

参考資料 7

高井資料簡易目録（HP 掲載用）

慶應義塾大学アート・センター　Keio University Art Center

Japanese | English

活動・イベント | センター概要 | 調査・研究 | 教育 | アート・スペース | アーカイヴ | 刊行物 | 利用案内

土方巽アーカイヴ

You are at: KUAC
→ アーカイヴ
→ アーカイヴの資料体
→ 土方巽アーカイヴ

土方巽と舞踏
アーカイヴの資料
土方巽アーカイヴの歴史

イベント・おしらせ

Coming 没後36年　土方巽を語ること XI　1/21

笠井叡ポスト舞踏公演『使徒ヨハネを踊る』 [無観客収録配信] 12/24

没後35年　土方巽を語ること X　オンライン・イベント 1/21

笠井叡舞踏公演「日本国憲法を踊る」[無観客収録配信] 12/24

没後34年　土方巽を語ること IX 1/21

慶應義塾大学アート・センターが「土方巽アーカイヴ」を設立したのは、1998年４月である。現代芸術に関する「研究アーカイヴ」の構築についての、アート・センターの関心の具体化の最初の試みであった。 1960年代に前衛芸術家として活動をさかんにした土方巽の舞踏は、我が国の現代芸術を代表するアーティストたちとのコラボレーションを通じて生み出され、たんなるパフォーミング・アートの領域には収まらない「横断性（トランス）」を特徴としており、この点においてアート・センターの「研究アーカイヴ」のパイロット・モデルとして最適の素材であった。

また、「アーカイヴ」は、ある特定の主題に関するドキュメント（一次資料）を収集・保存・管理することを使命とするが、土方巽アーカイヴは、土方巽記念資料館（アスベスト館／東京・目黒）から、数多くの一次資料の寄託を受けることで、無二のアートアーカイヴとして、その本格的な活動を開始した。ややもすると、この国が手放そうとする貴重な文化遺産を保持することが、アーカイヴの使命の中核にあることは言を俟たない。

さらに本アーカイヴは、研究文献（二次資料）の収集・蓄積と研究情報検索の具体化を図る「研究アーカイヴ」であること、これに加うるに、

What's on

Artist Vol
ころ
笠井叡ポ
る』 [無
アムバル
いる？！
学」
地域の文
ショップ
没後36年

2012年「没後26年 土方巽を語ること II」アーカイヴ配信

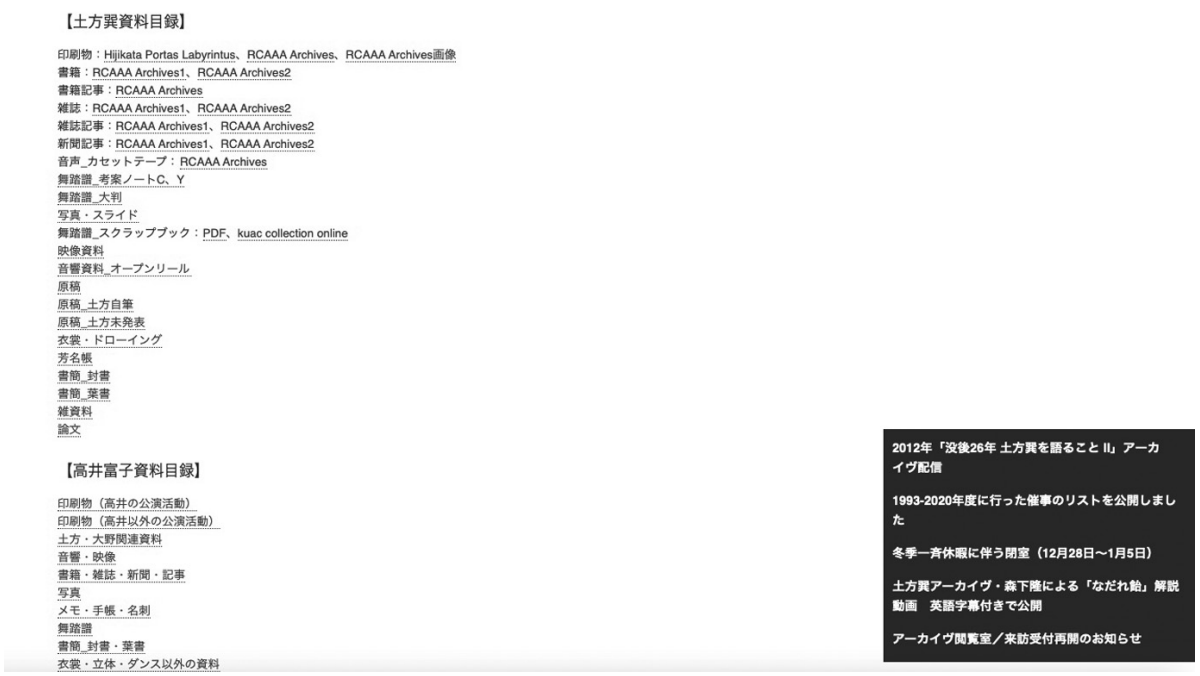
1993-2020年度に行った催事のリストを公開しました

冬季一斉休暇に伴う閉室（12月28日〜1月5日）

土方巽アーカイヴ・森下隆による「なだれ飴」解説動画　英語字幕付きで公開

アーカイヴ閲覧室／来訪受付再開のお知らせ

7-1



【土方巽資料目録】

印刷物：Hijikata Portas Labyrintus、RCAAA Archives、RCAAA Archives画像
書籍：RCAAA Archives1、RCAAA Archives2
書籍記事：RCAAA Archives
雑誌：RCAAA Archives1、RCAAA Archives2
雑誌記事：RCAAA Archives1、RCAAA Archives2
新聞記事：RCAAA Archives1、RCAAA Archives2
音声_カセットテープ：RCAAA Archives
舞踏譜_考案ノートC、Y
舞踏譜_大判
写真・スライド
舞踏譜_スクラッププック：PDF、kuac collection online
映像資料
音響資料_オープンリール
原稿
原稿_土方自筆
原稿_土方未発表
衣裳・ドローイング
芳名帳
書簡_封書
書簡_葉書
雑資料
論文

【高井富子資料目録】

印刷物（高井の公演活動）
印刷物（高井以外の公演活動）
土方・大野関連資料
音響・映像
書籍・雑誌・新聞・記事
写真
メモ・手帳・名刺
舞踏譜
書簡_封書・葉書
衣裳・立体・ダンス以外の資料

2012年「没後26年 土方巽を語ること II」アーカイヴ配信

1993-2020年度に行った催事のリストを公開しました

冬季一斉休暇に伴う閉室（12月28日〜1月5日）

土方巽アーカイヴ・森下隆による「なだれ飴」解説動画　英語字幕付きで公開

アーカイヴ閲覧室／来訪受付再開のお知らせ

7-2

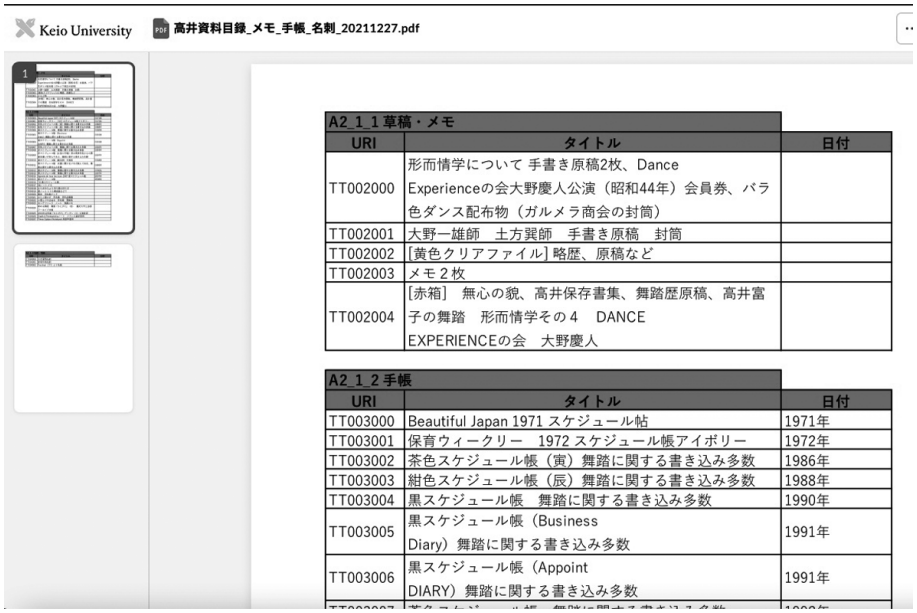
参考資料８

簡易目録（掲載画面）

Keio University　高井資料目録_書簡_封書_葉書_20211227.pdf

A1_1 封書		
URI	タイトル	日付
TT000001	赤箱１登録済み書簡、封筒３点、大野一雄より挨拶など	
TT000002	高井富子が書いて、出していない手紙　ページュ封筒入	2012年2月23日
TT000003	合田成男等への書簡コピー	
TT000004	アスペスト館より　土方を偲ぶ会　ご招待	
TT000005	夜想他コピーなど	
TT000006	足利市立美術館より　清水晃展の貸出御礼	
TT000007	海外からの書簡　[B5ピンククリアファイル]	
TT000008	土方巽'98実行委員会より　土方巽'98 案内	
TT000009	朝日新聞前橋総局　新聞記事あり	
TT000010	葉書・書簡など（紙ペラ）	
TT000011	原田広美より郵送物	
TT000012	Stage茨より公演案内	
TT000013	菊池淳子より公演案内	
TT000014	舞踏社天鶏より公演案内	
TT000015	元藤明子より郵送物　未開封	
TT000016	Tizyより手紙	
TT000017	西井浩司より書簡コピー	
TT000018	宇都宮寿美江より書簡	
TT000019	Mariko Sanjo Caviorより書簡	
TT000020	宇都宮ゆり江、寿美江より書簡	
TT000021	宇都宮ゆり江より書簡	
TT000022	宛名不明　書簡コピー	
TT000023	カーラより郵送物　公演など案内	
TT000024	Dr.Heidi Helmholdより書簡	
TT000025	本永恵子より書簡	
TT000026	宇都宮ゆり江より書簡	
TT000027	森下隆より書簡　KUACより案内	
TT000028	杉田丈作より書簡　公演案内	
TT000029	Theatre du temps 葉書多数	
TT000030	原田広美より	
TT000031	本永恵子よりFAX FAX用紙　文字消え注意	
TT000032	財津洋子より　一筆箋	
TT000033	国際交流基金佐藤より書簡	
TT000034	国際交流基金	

8-1

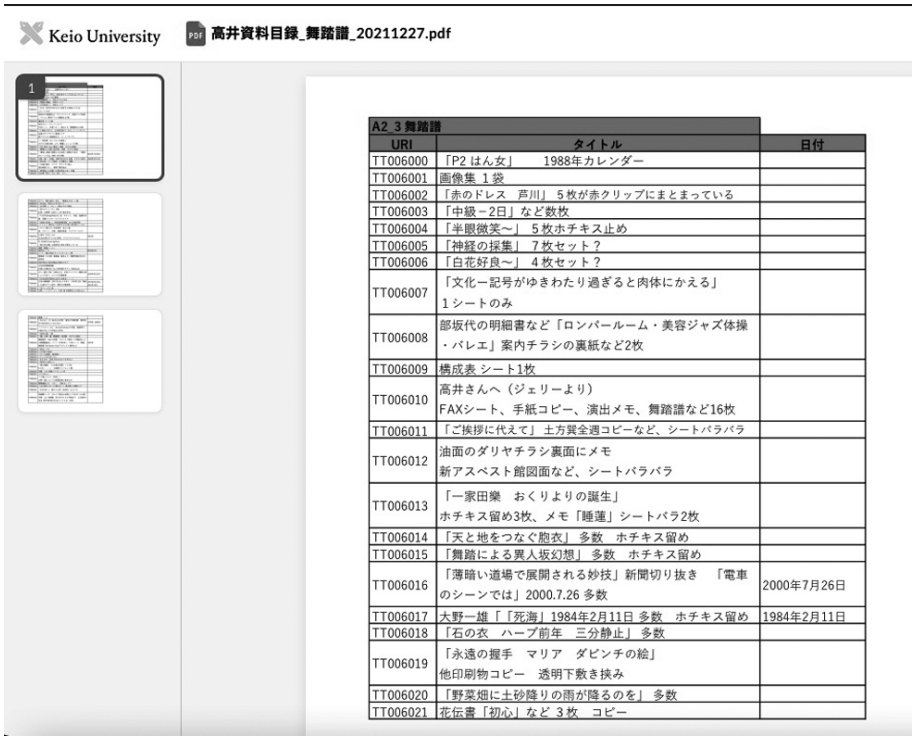


Keio University　高井資料目録_メモ_手帳_名刺_20211227.pdf

A2_1_1 草稿・メモ		
URI	タイトル	日付
TT002000	形而情学について 手書き原稿2枚、Dance Experienceの会大野慶人公演（昭和44年）会員券、バラ色ダンス配布物（ガルメラ商会の封筒）	
TT002001	大野一雄師　土方巽師　手書き原稿　封筒	
TT002002	[黄色クリアファイル] 略歴、原稿など	
TT002003	メモ２枚	
TT002004	[赤箱]　無心の貌、高井保存書集、舞踏歴原稿、高井富子の舞踏　形而情学その４　DANCE EXPERIENCEの会　大野慶人	

A2_1_2 手帳		
URI	タイトル	日付
TT003000	Beautiful Japan 1971 スケジュール帖	1971年
TT003001	保育ウィークリー　1972 スケジュール帳アイボリー	1972年
TT003002	茶色スケジュール帳（寅）舞踏に関する書き込み多数	1986年
TT003003	紺色スケジュール帳（辰）舞踏に関する書き込み多数	1988年
TT003004	黒スケジュール帳　舞踏に関する書き込み多数	1990年
TT003005	黒スケジュール帳（Business Diary）舞踏に関する書き込み多数	1991年
TT003006	黒スケジュール帳（Appoint DIARY）舞踏に関する書き込み多数	1991年

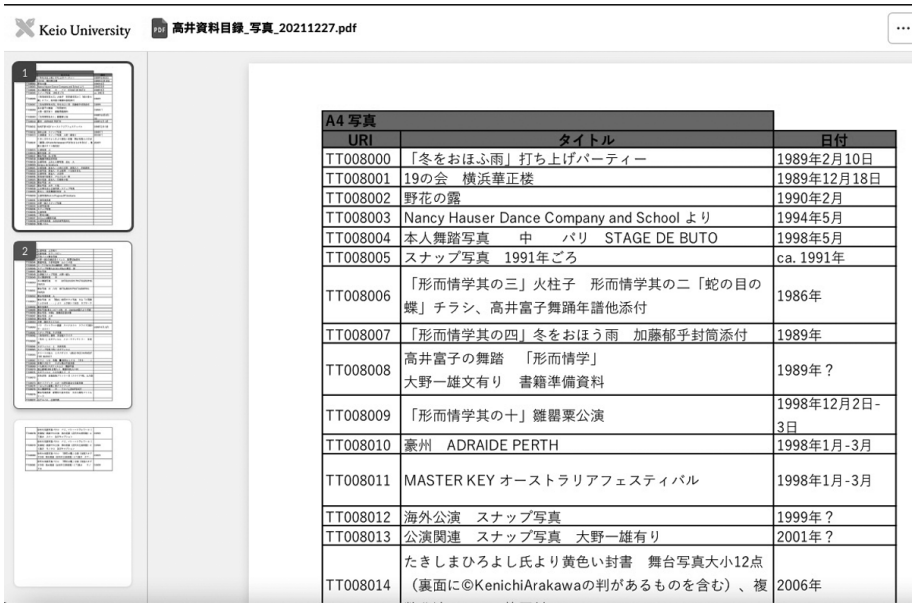
8-2



Keio University　高井資料目録_舞踏譜_20211227.pdf

A2_3 舞踏譜		
URI	タイトル	日付
TT006000	「P2 はん女」　1988年カレンダー	
TT006001	画像集 1 袋	
TT006002	「赤のドレス　芦川」 5枚が赤クリップにまとまっている	
TT006003	「中級－2日」など数枚	
TT006004	「半眼微笑～」 5枚ホチキス止め	
TT006005	「神経の採集」 7枚セット？	
TT006006	「白花好良～」 4枚セット？	
TT006007	「文化－記号がゆきわたり過ぎると肉体にかえる」 1シートのみ	
TT006008	部坂代の明細書など「ロンパールーム・美容ジャズ体操・バレエ」案内チラシの裏紙など2枚	
TT006009	構成表 シート1枚	
TT006010	高井さんへ（ジェリーより） FAXシート、手紙コピー、演出メモ、舞踏譜など16枚	
TT006011	「ご挨拶に代えて」 土方巽全週コピーなど、シートバラバラ	
TT006012	油面のダリヤチラシ裏面にメモ 新アスベスト館図面など、シートバラバラ	
TT006013	「一家田樂　おくりよりの誕生」 ホチキス留め3枚、メモ「睡蓮」シートバラ2枚	
TT006014	「天と地をつなぐ胞衣」 多数　ホチキス留め	
TT006015	「舞踏による異人坂幻想」 多数　ホチキス留め	
TT006016	「薄暗い道場で展開される妙技」新聞切り抜き　「電車のシーンでは」2000.7.26 多数	2000年7月26日
TT006017	大野一雄「「死海」1984年2月11日 多数　ホチキス留め	1984年2月11日
TT006018	「石の衣　ハープ前年　三分静止」 多数	
TT006019	「永遠の握手　マリア　ダビンチの絵」 他印刷物コピー　透明下敷き挟み	
TT006020	「野菜畑に土砂降りの雨が降るのを」 多数	
TT006021	花伝書「初心」など 3枚　コピー	

8-3



Keio University　高井資料目録_写真_20211227.pdf

A4 写真		
URI	タイトル	日付
TT008000	「冬をおほふ雨」打ち上げパーティー	1989年2月10日
TT008001	19の会　横浜華正楼	1989年12月18日
TT008002	野花の露	1990年2月
TT008003	Nancy Hauser Dance Company and School より	1994年5月
TT008004	本人舞踏写真　中　パリ　STAGE DE BUTO	1998年5月
TT008005	スナップ写真　1991年ごろ	ca. 1991年
TT008006	「形而情学其の三」火柱子　形而情学其の二「蛇の目の蝶」チラシ、高井富子舞踊年譜他添付	1986年
TT008007	「形而情学其の四」冬をおほう雨　加藤郁乎封筒添付	1989年
TT008008	高井富子の舞踏　「形而情学」 大野一雄文有り　書籍準備資料	1989年？
TT008009	「形而情学其の十」雛罌粟公演	1998年12月2日-3日
TT008010	豪州　ADRAIDE PERTH	1998年1月-3月
TT008011	MASTER KEY オーストラリアフェスティバル	1998年1月-3月
TT008012	海外公演　スナップ写真	1999年？
TT008013	公演関連　スナップ写真　大野一雄有り	2001年？
TT008014	たきしまひろよし氏より黄色い封書　舞台写真大小12点（裏面に©KenichiArakawaの判があるものを含む）、複	2006年

8-4

Keio University　高井資料目録_音響・映像_20211227.pdf

A5_1 音響		
URI	タイトル	日付
TT009000	LPレコード（12インチ）102組（内3枚ケースなし、8組アルバム、10組紙袋入り）	
TT009001	SPレコード（10インチ）26枚、アルバム1組（内5枚ケースあり）	
TT009002	EPレコード（7インチ）	
TT009003	TOWER RECORDの袋　レコード	
TT009004	レコードLP2枚　鈴木楽器店黒い袋	
TT009005	レコードSP　街の灯他約10枚	
TT009006	water dream	1990年9月21日
TT009007	NOBANA NO TSUYU	1990年9月22日
TT009008	世界の行進曲より4曲、フォンテッサより	1968年9月15日
TT009009	とちの木	
TT009010	土方氏ー大野対談	
TT009011	尺八と琵琶の二重奏曲ー三つの心象	
TT009012	オープンリールテープ	1968年9月27日
TT009013	オープンリールテープ	1968年9月27日
TT009014	形而情学、アリスの眼、アダモ	
TT009015	ヴエ＝ヴエン、アラン　フエース	
TT009016	タンゴ特筆	1967年6月19日
TT009017	オープンリールテープ	1968年8月24日
TT009018	「トリノの母」伊太利映画from	
TT009019	オープンリールテープ	
TT009020	サボテン	
TT009021	「かなしむ」の？マザー	1964年6月11日
TT009022	妖しい女	
TT009023	フィルムの入った缶	
TT009024	テープ一本NO.3	
TT009025	形而情学	
TT009026	リハーサル用No2	
TT009027	野花の露　water dream 高砂	
TT009028	Scotch 176 185 mm	
TT009029	カセットテープ　86本（＋空ケース2本）	
TT009030	カセットテープ（缶入り）17本	

8-5

Keio University　高井資料目録_衣裳_立体_ダンス以外_20211227.pdf

A6_1 衣裳・小物		
URI	タイトル	日付
TT011000	衣裳、扇子、フィルムなど約10点	
TT011001	「砂利の衣裳」下駄、小物など約6点	
TT011002	衣裳、傘、かつら、小物など約20点	
TT011003	衣裳、小物など約15点	
TT011004	幕1点	
TT011005	衣裳、小物など約15点	
TT011006	衣裳、小物など約10点	
TT011007	照明など舞台小道具約5点、R.YOSIEキャンバス4点	
TT011008	衣裳約12点	
TT011009	衣裳など約20点	
TT011010	衣裳など約20点	
TT011011	舞台小道具など約10点	
TT011012	衣裳、小道具、写真、土方関連記念品など約30点	
TT011013	帽子、扇子、小物など約35点	

A6_2 立体		
URI	タイトル	日付
TT012000	ステンドグラス	
TT012001	ラジオなど日用品、葉書、書籍、写真（衣裳ケース入）	
TT012002	木片4点	
TT012003	野菜のマラカス複数点	
TT012004	装飾品、グラス、ストール、土方巽名刺など約15点	

8-6

参考資料９

整理後の日吉倉庫写真